

頑張れ 新規就農者

移住

農協改革やTPP（環太平洋経済連携協定）、さまざまな難問を抱える日本の農業。高齢化と少子化による後継者不足もそのひとつで多古町でも例外ではありません。これからは、6次産業化といったもうかる農業への取り組みに加えて、移住・定住者の促進による新たな後継者の獲得により農業を守っていく必要があるのかもしれない。そのような中、平成26年から多古町に移住し、新しく農業を始めたという大橋誠さんにお話しを伺いました。



僕らも楽しい、お客さんも楽しい そんな農業をやりたい

漠然とした思いから決心へ 「農家になりたい」

僕、生まれは札幌なんです。大学進学を機に東京に出て来ました。食べ物や農業、農村に漠然と関心があつたので、最初の勤め先は、そんなテーマの本ばかり出していた出版社に3年ほど勤めました。次は居酒屋に3年。その次は成田市の農業生産者法人に勤め、野菜の輸出を担当していました。そこも3年ほど。そのあと神崎町の造り酒屋に5年くらい勤めました。

農業、農村への漠然とした関心が、「農家になろう！」という思いに変わったのは野菜の輸出をしていた時。仕事でいろいろな農家さんと知り合い、成り行き半分米作りを始めたことがきっかけでした。自分の作った米が意外にもおいしく、米作りそのものが心から楽しかったのです。農業って本当に楽しい！これです。生きていけたら最高だなあ！と思っただけでした。

本格的に農業をやろうと農家物件を探したところ、多古町にみつけた物件が僕たちの希望にぴったりで、しかもその家がたまたま、僕の大好きな農家さんの家の近くだったのですね。ご縁を感じ、迷わず移住を決意しました。ここに移り住んでからも、



宿を催したいと考えています。題して「くうねる合宿」です。文字通り、食べて寝る、それだけの合宿です。多古町にはおいしいものがたくさんあります。そのおいしいものを贅沢にたくさん食べてもらって、昼からお酒もたくさん飲んでもらって、お昼寝もたっぷりしてもらいます。体を動かしたい人には、田んぼや畑でちょこつと汗を流してもらいます。そうするとまたお腹が空くので、また贅沢に食べて飲んでもらいます。お世話になってる農家さんにも遊びに来てもらって、楽しくおしゃべりします。夜も

うんですよ。都会だとみんな時間に追われ、ストレスに圧迫されて、個性が出る余裕も暇もない感じがしますが、農村の人は、ほんとに人間としてすごく魅力的だと思います。農村でも、皆さん朝早くから一生懸命仕事をしていきますが、農村という環境が人に余裕を与えるから素敵で居続けられるんじゃないかと思っています。

僕の目指す経営 「農村の豊かさを伝える」

こんな風に僕が感じ、毎日楽しく暮らせていること。農村って本当に素晴らしいところだ。人に伝えることが、僕のこれからの仕事なんじゃないかと思っています。今の世の中があまりにも余裕がなく、トゲトゲしていると感じるからです。だから僕は、まずはきちんとお米を作ることができるとなったら、農村でできる楽しいことをたくさんやりたいと思っています。

楽しいことの企画は僕の頭の中に貯めているのですが、例えば少しふざけているかもしれませんが、合



おほし 大橋 誠さん(39歳)
妻・怜子さんと3人の子どもの5人暮らし(西古内に在住)。現在、田んぼ2丁5反、畑3反5畝を借りて、コシヒカリや酒米、大豆などを作っている。来年は、耕作面積を広げることや、みその加工所を作りたいと目標を語る。



本当にたくさんの方から温かなご支援をいただき、何もかもがスムーズに進む毎日に、ますますご縁と感謝を感じています。米作りについても、同じ西古内地区の大先輩から生きた知恵を教えてください。貴重な学びの毎日を送らせてもらっています。

いつも思うこと 「農村は本当に豊かなところ！」

例えばキュウリです。毎年夏になると、畑のキュウリがなり過ぎて、人にあげてもなくならないほどの収穫がありますよね。あげてもあげても無くなりません。最後は畑が大きくなり過ぎたお化けキュウリができてしまいますよ。

土に種が一粒落ちて、そこに水と光が届きさえすれば、作物はたくさん恵みを与える。本当に驚くほどの恵みです。加えるものはほとんど

ゆっくり寝てもらって、翌日もそんな感じ。ただそれだけの合宿です。果たしてこれでお客さんは満足するのかどうか、やったことがないので私にも分かりません(笑)。でも、多古町のおいしいものと、農家さんたちの楽しいおしゃべりは、何物にも代えがたいごちそうだと、僕は確信しています。こんな楽しいことをしながら、少しずつでも農村の豊かさを伝えられたら素敵だなあと思っています。

そして最後に付け加えておきます。僕の農業はまだ始まったばかり、道の途中です。先輩方には、いろいろ教えていただきたいです。田んぼや畑で見かけたら、一声かけていただけると嬉しいです。よろしくお願ひします。

タダに近いものであるのには。山に入れば、春にはタケノコが食べられないほど出てきますし、秋にはキノコもたくさん採れます。そして、こうした恵みを人にあげると、「ありがとう！嬉しいわ！」と喜んでもらえる。

これは都会では決してあり得ないことです。都会では何をするにもお金がかかります。もし同じことをしようと思えば、大変な労力とお金が必要になり、結局スーパーで買った方がまし、という結果になるわけです。でもそれでは面白くない。自分で育てたり収穫したという喜びがありませんから。やはり都会では無理なのです。

しかも農村では人も面白い！実に個性豊かな人が多くて楽しいですね。個性が出るっていうのは、それぞれの人に余裕があるからだと思

